

平成29年度学校・家庭・地域連携サポート事業

「フォローアップ研修」

- 目的： 県中域内の家庭教育支援者が、幼稚園・保育所・小学校・中学校での活動（PTA懇談会、家庭教育学級、就学時健康診断、放課後支援等）や公民館活動等でファシリテーターや講師を務めるための知識・技能や実践力を高める。
- 日時： 平成30年1月24日（水）10：00～15：15
- 会場： 須賀川アリーナ 会議室

◦事業説明◦ 「平成29年度度福島県の家庭教育関連事業」について

発表者 県中教育事務所総務社会教育課 社会教育主事 齊藤 俊明

平成29年度福島県の家庭教育関連事業の概要について、県及び県中域内の課題も含めて説明を行った。また、本研修会の目的や事業全体の中での位置付けの他、「地域家庭教育推進県中ブロック会議」や「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」など、個々の事業についても取組の様子を紹介した。

◦講演◦ 「ネット時代を生きる子どもたちへの対応」

講師 聖心女子大学 非常勤講師 榎本 竜二 氏

技術者でもある講師の専門知識と豊富な実践経験をもとに、子どもたちのネット事情や秘められた危険性について、多くの事例を交えながらユーモアたっぷりに解説していただいた。講演の中で「約束事やルールを守っているかどうかをチェックし続けること、破った時のペナルティを行使すること」「子どもを信じて、子どもの判断力を信じてはいけない」「身近な相談相手となる大人がいることが大切」「ネット・スマホに詳しくなくても子どもたちを守ることは誰にでもできる」などと訴えた。参加者からは、より多くの子どもたちや保護者、支援者に聴いてほしい内容であるとの声が多く寄せられた。

【研修者の感想】

- 何が悪いのか分からず、子どもに禁止させるのではなく、大人も勉強し、対応することが必要だと思いました。
- ネット社会で大人が寄り添っていくことがとても大事だと思いました。
- 自分も一人の親としてただネットを使える環境を与えるだけでなく、ネットの仕組みについて伝えることも大切だと思った。

◦講義・演習◦ 「子育ての現状とこれからの子育て支援」

講師 新潟県立大学 准教授 角張 慶子 氏

子育ては「大変だけど楽しい、楽しいけど大変」、子どもは「かわいいけどイライラする、イライラするけどその存在に助けられる」という親和的な側面と反発的な側面を持つものであり、どんな親も子育てをイヤになることがある。「イヤになってもいい」ものなのだとってくれる支援者が周りにいることが大切である。子育ての基本姿勢として「傾聴」「共感・受容」「価値観の意識」を持つこと、そして「一緒に考えてくれる」「身近にいてくれる」寄り添える存在でいてほしいと講義した。その後小グループに分かれ「今日参加しての気づき」「これから子育て支援でやりたいこと」について意見交換を行った。

【研修者の感想】

- 「子育て中のママに声をかけるだけでも支援になる」「普段していた行動が支援者として支えることになっていた」ことを確認できました。
- 子育ては24時間年中無休。自分が通り過ぎてしまうとつい忘れてしまいそうになるけど、周りに目を向けて、笑顔と声かけから始めたいと思います。